

みんなで取り組む 生き物調査プロジェクト 報告書

2019

**みんなで取り組む
生き物調査
プロジェクト
調査員募集中!**

「みんなで取り組む生き物調査プロジェクト」とは

- ・市民の方に調査をしていただくことで、身近な自然や生き物に興味をもっていただくこと
- ・長期的な調査により、春日部市の環境が現状どのようになっているのか、どのように変化しているのかを知る第一歩とすること

以上2点を主な目的として、平成30年度より開始したプロジェクトです。身の周りの自然環境や生物多様性について、一緒に調べてみませんか。

調査方法

- ① 調査員登録をする
(登録できる方：市内在住・在勤・在学者)
- ② 調査対象の生き物を探して、調査票に記入し、写真を撮影する
※調査対象は年度によって変更する場合があります。
詳しくは春日部市のホームページを確認するか、環境政策課までお問合せください。
- ③ 市役所に提出する

調査員登録をした方には調査員マニュアル、調査員バッジ等を配布します。登録の方法は、裏面をご確認ください。調査の詳細は春日部市のホームページを確認するか、環境政策課までお問合せください。

【問い合わせ先】春日部市環境政策課
TEL: 048-736-1111
FAX: 048-733-3826
E-mail: kankyo@city.kasukabe.lg.jp

このまでの調査対象
平成30年度: 子猫
令和元年度: チョウ

リサイクル可能
CONTAINS RECYCLED
PAPER

11の自然環境
Sustainable
City, 2020

春日部市

春日部市 環境政策課

目次

1. みんなで取り組む生き物調査プロジェクトについて.....	1
1-1 調査概要.....	1
1-2 調査員に配布したもの.....	2
1-3 メッシュ.....	3
1-4 調査方法.....	3
2. 調査結果.....	4
2-1 調査票提出者の年齢層.....	4
2-2 チョウを記録した時間.....	4
2-3 月ごとの記録件数.....	5
2-4 1 kmメッシュ当たりの種数.....	6
2-5 記録件数の多かったチョウについて.....	7
3. 記録されたチョウの詳細.....	8
3-1 アゲハチョウ科.....	8
3-2 シロチョウ科.....	14
3-3 シジミチョウ科.....	18
3-4 タテハチョウ科.....	26
3-5 セセリチョウ科.....	43
3-6 判断が難しいもの.....	47
4. 謝辞.....	49
5. 参考文献.....	49
資料編.....	50
チョウの記録マップ.....	56

1. みんなで取り組む生き物調査プロジェクトについて

1-1 調査概要

「みんなで取り組む生き物調査プロジェクト」は、市民の方に調査をしていただくことで、身近な自然や生き物に興味をもっていただくことと、長期的な調査により、春日部市の環境が現状どのようになっているのか、どのように変化しているのかを知る第一歩とすることを目的として平成30年度より開始したものです。

調査対象は、森林・湿地・草原など様々な場所に生息し、適した環境がある場所へ移動する「チョウ」としました。

平成30年度は調査員登録期間・調査期間・調査票提出期間と、それぞれ期間を区切って調査を実施しましたが、令和元年度（平成31年度）は調査員登録の受付を随時行いました。調査報告は原則1カ月ごとに提出するものとし、調査はプロジェクトが終了となるまで継続するため、現在も調査報告を受け付けています。令和元年12月27日時点で、64名が調査員登録をして、849件の調査報告がありました。（調査対象外2件含む）

この報告書は初年度の調査終了日（平成30年11月30日）から令和元年12月27日までの調査報告をまとめたものです。

1-2 調査員に配布したもの

① 調査員マニュアル

調査方法や調査票の記入方法など、調査に関する情報をまとめたもの

② 生き物調査マップ

春日部市の地図に1km×1kmのメッシュを記載したもの

③ 調査員バッジ

調査員登録者ごとに、調査員ナンバーを印字した缶バッジ

④ 調査票

チョウを発見した状況等について記入、提出するもの

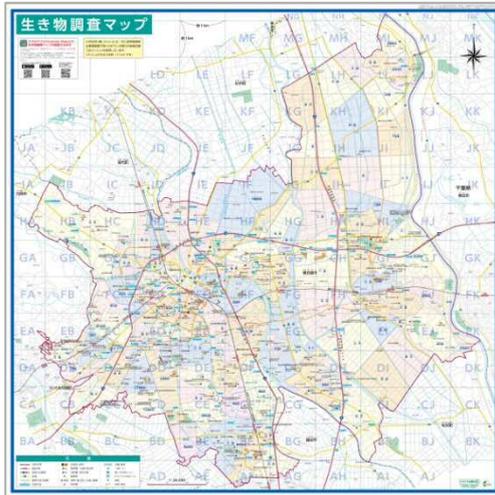
⑤ 写真帳

撮影したチョウの写真を印刷して写真帳に添付の上、提出するもの
(紙での提出だけでなく、データでの送付も受け付けました)

①



②



③



④

みんなで取り組む生き物調査プロジェクト2019 調査票							
No.	日付	時間	場所	メッシュ番号	チョウの名前	個体数	調査員ナンバー
1	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
2	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
3	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
4	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
5	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
6	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
7	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
8	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
9	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ
10	月 日	□午前 □午後 (時刻)				□1 □2以上	□幼虫 □成虫 □たまたま □おなじ

※正午以降は午前・午後を区別して記入してください。正午以降は午後に入ります。
【備考】 1:田んぼ 2:公園 3:水辺・河川 4:緑地 5:林道 6:公園 7:住宅地 8:駅前市 9:その他(具体的に記入してください) ※複数記載可

⑤

みんなで取り組む生き物調査プロジェクト2019 写真帳 調査員ナンバー

写真番号 _____
調査票 No. _____
チョウの名前 _____

※写真を印刷する場合はし併せてお願いします。

写真番号 _____
調査票 No. _____
チョウの名前 _____

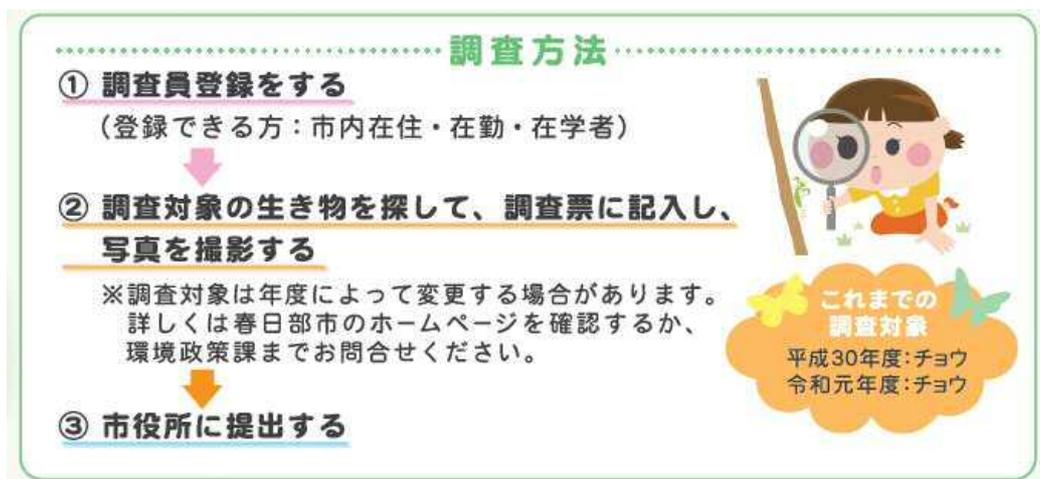
※写真を印刷する場合はし併せてお願いします。

1-3 メッシュ

「メッシュ」とは、緯度・経度に基づいて地球をほぼ同じ大きさの網の目に分けたものです。地球は円形なので、厳密には高緯度の場所ほど東西（横）の長さが短くなります。そのため、1 km×1 kmと表しても正方形でないことがあります。

今年度の調査では位置を表す世界共通の基準である「世界測地系」に基づいて春日部市を1 km×1 kmに分けたもの（第3次メッシュ）を使用して、チョウが記録された場所の把握を行いました。

1-4 調査方法



自宅の庭、近くの公園や河川敷、田んぼのまわりなど、身近なところでチョウを探して、見つけたら調査票に記入し、紙またはエクセルデータで市に提出していただきました。調査票には下記の10項目を記入していただきました。

調査票記入項目

日付	調査を実施した日付を記入
時間	午前または午後から選択して記入(正午は午後を含む)
場所	チョウを記録した場所を記入
メッシュ番号	配布した生き物調査マップを確認して、記録した場所が当てはまるメッシュを探し、アルファベット2文字を記入
チョウの名前	記録したチョウの名前を記入
個体数	記録したチョウの個体数を1または2以上で記入 大体の個体数が分かる場合は具体的な数字も記入
状態	幼虫・成虫・たまご・さなぎの中から選択して記入
環境	1 田んぼ 2 畑・草地 3 水路・河川 4 樹林地 5 林縁 6 公園 7 住宅地 8 調節池 9 その他のなかから選択して記入(複数選択も可)
気づいたこと	飛び方や見た目の特徴など、気づいたことを自由に記入
写真番号	撮影した写真に通し番号をつけて、写真と調査票それぞれに記入 (データで提出の場合はファイル名を変更)

2. 調査結果

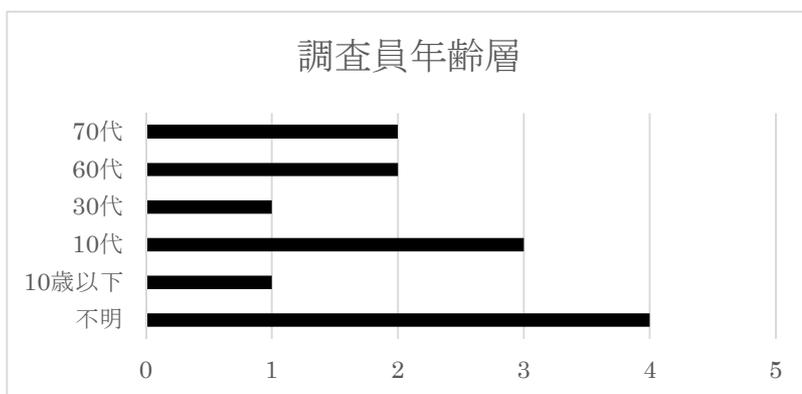
令和元年12月27日時点での調査員登録者は64名、調査票提出者は13名、報告があったチョウの記録は849件、記録された種は41種でした。なお、記録の中で「キチョウ」と報告されたものが5件ありましたが、現在キチョウはキタキチョウとミナミキチョウに分けられており、ミナミキチョウは本州に分布していないため、本調査ではキタキチョウとしてまとめて記載しております。

849件の報告のうち、蛾の報告が1件と、チョウの名前が不明確な報告が1件あったため、この2件は調査対象外とし、847件の報告について、以下のようにまとめました。

2-1 調査票提出者の年齢層

調査票提出者の年齢層を表とグラフで表すと以下のようになります。

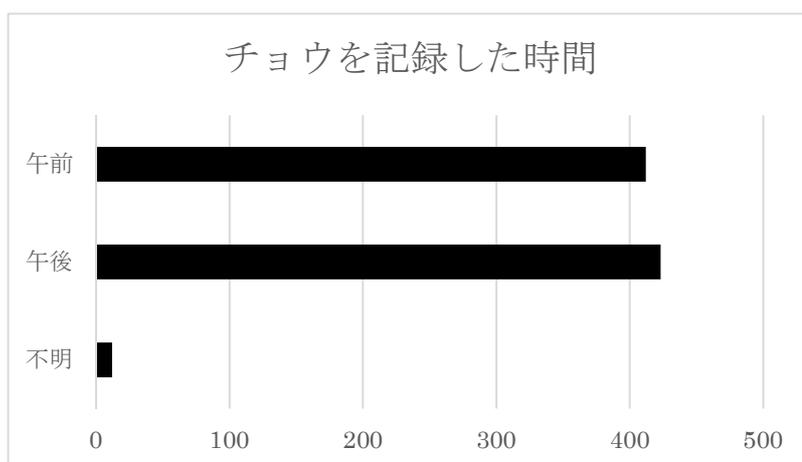
年齢	人数
70代	2
60代	2
30代	1
10代	3
10歳以下	1
不明	4
合計	13名



2-2 チョウを記録した時間

チョウを記録した時間を表で表すと以下のようになります。午後の記録の方が少し多い結果となりましたが、あまり大きな差はでませんでした。

時間	件数
午前	412
午後	423
不明	12
合計	847件



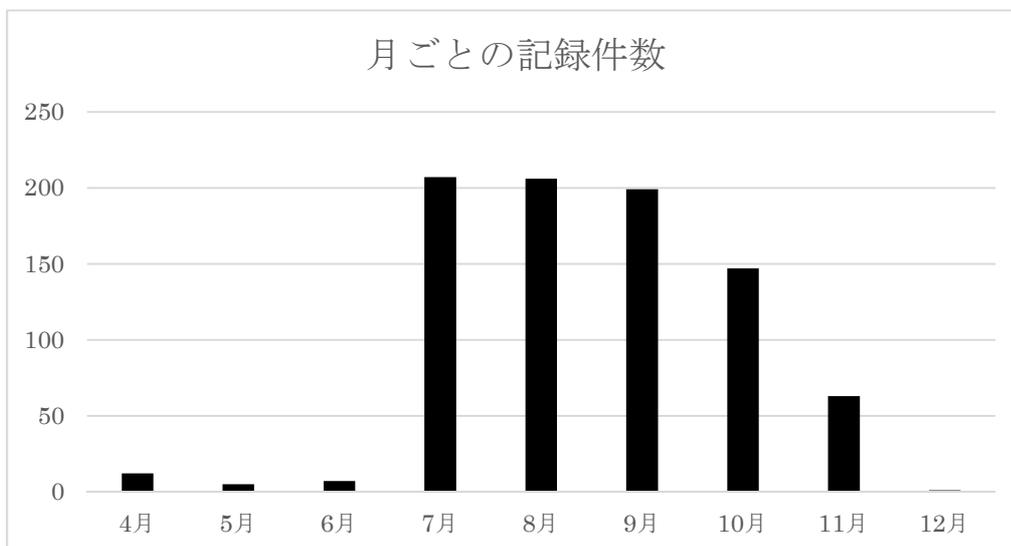
2-3 月ごとの記録件数

月ごとの記録件数を表とグラフで表すと以下のようになります。

昨年度の調査期間終了日（平成30年11月30日）以降の調査報告を受け付けましたが、平成30年12月1日～平成31年3月31日までの報告はありませんでした。

報告があった月の中で、令和元年7月から令和元年10月の件数が多い結果となりました。この要因としては、夏から秋に成虫となる種が多く、蛹や幼虫と比べて見つけやすい事があげられます。

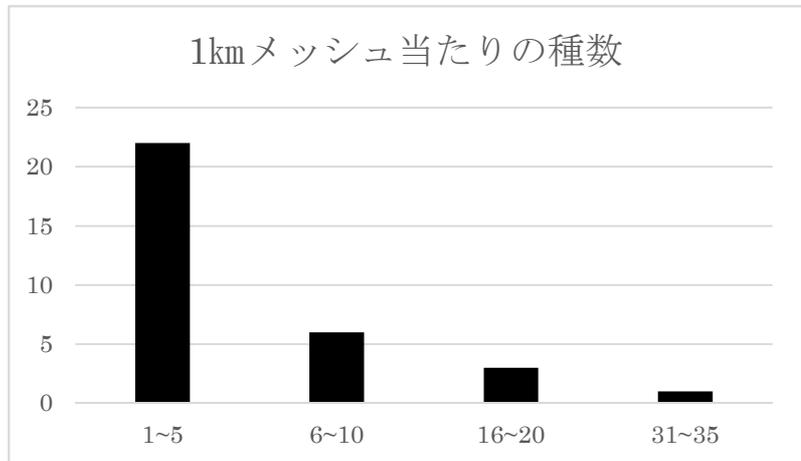
月	記録件数
平成31年4月	12
令和元年5月	5
令和元年6月	7
令和元年7月	207
令和元年8月	206
令和元年9月	199
令和元年10月	147
令和元年11月	63
令和元年12月	1
合計	847件



2-4 1kmメッシュ当たりの種数

今回の調査では、春日部市を1km×1kmにわけて調査を実施し、その結果33のメッシュで記録がありました。1kmメッシュあたりの種数の分布を表とグラフで表すと、以下のようになります。

種数	メッシュ数
1~5	23
6~10	6
16~20	3
31~35	1
合計	33



記録された種数ごとに地域を分けると以下のようになります。なお、いくつかの地域にまたがっているメッシュは、主な地域のみ記載しています。

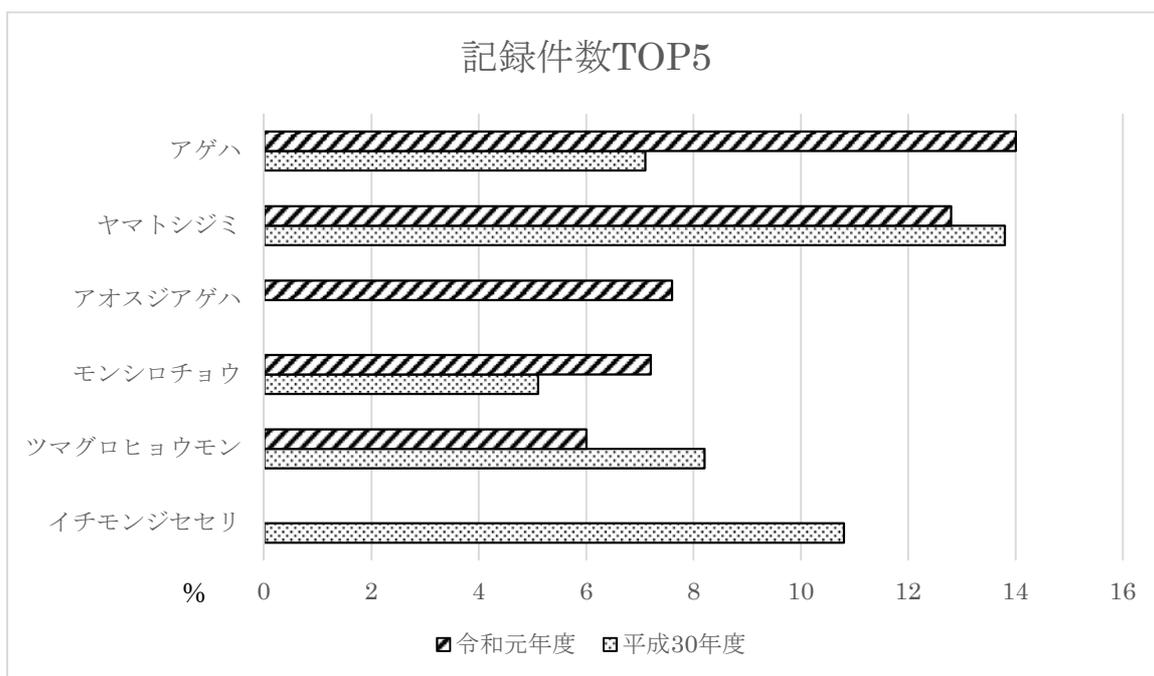
1種	西宝珠花、下吉妻、南栄町、新方袋、永沼、水角、藤塚、南中曾根、大沼、一ノ割、備後西、備後東
2種	中央、南
3種	上柳、粕壁東、粕壁、中央、下大增新田
4種	小平、樋籠、牛島、米島、粕壁東
5種	西金野井、小淵、八丁目
6種	梅田、梅田本町、武里中野
7種	西金野井
8種	緑町
9種	谷原
10種	西宝珠花、上吉妻
18種	備後東、一ノ割
19種	上金崎、金崎
20種	西金野井
32種	新宿新田

2-5 記録件数の多かったチョウについて

今年度記録されたチョウ 41 種の中で、報告件数が最も多かったのはアゲハでした。2 番目はヤマトシジミ、3 番目はアオスジアゲハ、4 番目はモンシロチョウ、5 番目はツマグロヒョウモンでした。()内の数字は全体の報告件数に占める割合です。

記録件数 TOP5

	令和元年度	【参考】平成 30 年度
1	アゲハ(14.0%)	ヤマトシジミ(13.8%)
2	ヤマトシジミ(12.8%)	イチモンジセセリ(10.8%)
3	アオスジアゲハ(7.6%)	ツマグロヒョウモン(8.2%)
4	モンシロチョウ(7.2%)	アゲハ(7.1%)
5	ツマグロヒョウモン(6.9%)	モンシロチョウ(5.1%)



平成 30 年度の結果と比較するとイチモンジセセリがアオスジアゲハと入れ替わったような結果となりました。イチモンジセセリは草原や平地で発生することが多く、アオスジアゲハは森林で発生することが多いです。昨年度は内牧周辺での記録が多かったのに対し、今年度は新宿新田周辺での記録が多かったことも影響していると考えられます。記録された 41 種の一覧については、P50 からの資料編をご覧ください。なお、場所の記載が曖昧な報告が 9 件ありましたので、それ以外の 838 件を掲載しています。

3. 記録されたチョウの詳細

3-1 アゲハチョウ科

① アオスジアゲハ 報告 65 件 【平成 30 年度 87 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地				
3 水路・河川	2			
4 樹林地	2			
5 林縁				
6 公園	9			
7 住宅地	35	8	5	2
8 調節池				
9 その他	1			
小計	50	8	5	2
合計	65 件			

食草 クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイなど（クスノキ科）

生息環境 平地～丘陵地の照葉樹林が本来の生息地だが、食草が生える街路樹、公園なども好む。

特徴 はねは表裏ともに黒く、中央に青色の帯が目立つ。高いところをすばやく飛ぶ。



② アゲハ 報告 119 件 【平成 30 年度 194 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ	不明
1 田んぼ	2				
2 畑・草地	5				
3 水路・河川	1				
4 樹林地	1				
5 林縁	2				
6 公園	30	1			1
7 住宅地	60	8	3	1	
8 調節池					
9 その他	4				
小計	105	9	3	1	1
合計	119 件				

食草 サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、ハマセンダン、各種栽培ミカン類など（ミカン科）

生息環境 平地～低山地の人家・農地や林縁部などに生息する。

特徴 はねは黒色と白色（少し黄色が入る場合もある）で、模様が入っている。日中、高いところを飛ぶ。



ここに模様があるのはアゲハです

③ キアゲハ 報告 35 件 【平成 30 年度 90 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地	7			
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	13			
7 住宅地	7	7		
8 調節池				
9 その他				
小計	28	7		
合計	35 件			

食草 セリ、ミツバ、シシウド、ニンジン、パセリ（セリ科）

生息環境 平地～山地の明るい草原、都市部の公園などに生息する。

特徴 表は黄色地に黒い模様がある。アゲハと間違えやすい。日中、草地の上を飛ぶ。



ここが黒いものは
キアゲハです

④ クロアゲハ 報告 44 件 【平成 30 年度 30 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地	1			
3 水路・河川				
4 樹林地	2			
5 林縁	1			
6 公園	1			
7 住宅地	37			
8 調節池				
9 その他	1			
小計	44			
合計	44 件			

食草 カラスザンショウ、サンショウ、イヌザンショウ、ハマセンダン、栽培ミカン類（ミカン科）

生息環境 平地～低山地の森林。都市部の公園や人家などにも見られ、樹木が茂ったやや日当たりの悪い場所を好む。

特徴 オスのはねの表はほぼ黒色。メスのはねの表は淡い黒色地に黒い模様が縦方向に入っているのが目立つ。後翅の縁に赤い点のような模様があり、オスよりメスの模様の方がはっきりしている。



⑤ ジャコウアゲハ 報告 18 件 【平成 30 年度 108 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	16	1		
8 調節池				1
9 その他				
小計	16	1		1
合計	18 件			

食草 ウマノスズクサ、オオバウマノスズクサ、リュウキュウウマノスズクサなど
(ウマノスズクサ科)

生息環境 ウマノスズクサが見られる河川堤防や農地、人家周辺などの明るい草原環境のほか、オオバウマノスズクサの生える樹林地の林縁部や暗い場所にも生息する。

特徴 はねの表がツヤのない黒色であればオス、黄色みがかかった灰色であればメス。はねが細長く、長い尾状突起が特徴的。都市部でも比較的に見られるが、環境の変化(食草の消失)によってだんだんと少なくなっている。



⑥ ナガサキアゲハ 報告 8 件 【平成 30 年度 24 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	1			
7 住宅地	7			
8 調節池				
9 その他				
小計	8			
合計	8 件			

食草 ナツミカン、ユズ、カラタチ、キンカンなどの栽培ミカン類（ミカン科）

生息環境 食草の多い農地や人家周辺を好む。

特徴 尾状突起がない。はねの表が黒色であればオス、黒地に白色の模様があればメス。かつての分布は九州や四国南部までであったが、食草栽培の普及や温暖化に伴い北上し、現在は関東でもよく見られる。

3-2 シロチョウ科

① キタキチョウ(キチョウ含む) 報告 26 件 【平成 30 年度 68 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ	不明
1 田んぼ	2				
2 畑・草地	4				
3 水路・河川	1				
4 樹林地					
5 林縁	4				
6 公園	5				1
7 住宅地	9				
8 調節池					
9 その他					
小計	25				1
合計	26 件				

食草 メドハギ、ミヤギノハギなどのハギ類、ネムノキ(マメ科)、リュウキュウクロウメモドキ(クロウメモドキ科)など

生息環境 平地～山地の樹林周辺や草地など食草の生える幅広い環境。都市部の公園などにも生息する。

特徴 表裏ともに地色は黄色で表には黒色帯状の模様がある。以前は「キチョウ」とされていたが 2 種類いることが分かり現在は「キタキチョウ」と「ミナミキチョウ」に分けられている。



② ツマグロキチョウ 報告1件 【平成30年度 0件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁	1			
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	1			
合計	1件			

食草 カワラケツメイ、アレチケツメイ(マメ科)

生息環境 食草のある河原や荒地などの草原環境。カワラケツメイは河原の石ころが転がっているような荒地などの草原によく見られる植物である。近年は河川改修などによってそのような場所が減ってしまい、なかなか見ることができない植物となってしまった。これに伴い、身近に生息していたツマグロキチョウは急速に姿を消している。一方、静岡・愛知・岐阜ではカワラケツメイの類似種である外来種のアレチケツメイで発生し、個体数が増えている。

特徴 はねを開いた大きさが18～22mmと小型。日中、草原上を緩やかに飛翔し、発生場所周辺をあまり離れず群生することが多い。メドハギ、ヤハズソウ、ミヤコグサなど各種の花を訪れるほか、オスは吸水も盛んに行い、集団もよく見られる。



2本の平行した
模様があります

③ モンキチョウ 報告 38 件 【平成 30 年度 106 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ	不明
1 田んぼ	1				
2 畑・草地	2				
3 水路・河川	2				
4 樹林地					
5 林縁					
6 公園	5				
7 住宅地	25				2
8 調節池					
9 その他	1				
小計	36				2
合計	38 件				

食草 シロツメクサ、レンゲソウ、コマツナギ、ミヤコグサなどの各種マメ科植物

生息環境 緑地が広がる場所に生息する。

特徴 表は黄色または白色で、白色は全てメス。前翅の真ん中あたりに黒い点がある。はねのふちに黒の帯状模様があり、その中に点が列になっているのが見られる。点の色ははねが黄色であれば黄色、白であれば白。



④ モンシロチョウ 報告 61 件 【平成 30 年度 138 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ	不明
1 田んぼ	15				
2 畑・草地	6				
3 水路・河川	8				
4 樹林地	1				
5 林縁					
6 公園	7				
7 住宅地	21				2
8 調節池					
9 その他	1				
小計	59				2
合計	61 件				

食草 キャベツ、ブロッコリー、アブラナ、ショウカッサイなどの栽培種およびイヌガラシ、タネツケバナなど

生息環境 農地・公園・人家・河川などに生息する。

特徴 表は白色で、裏は少し黄色みを帯びる。メスは黄色みが強い。キャベツなどの害虫で、個体数が多いのでよく見られる。



3-3 シジミチョウ科

① ウラギンシジミ 報告 42 件 【平成 30 年度 41 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川	1			
4 樹林地	3			
5 林縁	13			
6 公園	2			
7 住宅地	19			
8 調節池				
9 その他	3			
小計	42			
合計	42 件			

食草 クズ、フジ、タイワンクズ、ハリエンジュなど(マメ科)

生息環境 樹林の多い公園や人家周辺。春～初夏は食草がフジ類のため、溪流沿いの樹林や公園などで発生。秋には主にクズを食草とするため、林縁部や河川堤防、都市部の荒地などクズの繁茂する場所に生息する。

特徴 はねの表は茶褐色。オスは中央にオレンジ色、メスは中央に白色の模様がある。裏はオスメスどちらも銀白色。初夏はフジ、秋はクズを主に食べる。



写真の個体はオスのため
オレンジ色ですが、
メスはこの部分が白色です

② ウラナミシジミ 報告 7 件 【平成 30 年度 45 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ	その他
1 田んぼ					
2 畑・草地	6				1(脱皮殻)
3 水路・河川					
4 樹林地					
5 林縁					
6 公園					
7 住宅地					
8 調節池					
9 その他					
小計	6				1
合計	7 件				

食草 エンドウ、ダイズ、インゲンなどマメ科の栽培種を好むが、クズ、ハギ類などのマメ科の野生種も利用する。

生息環境 平地～丘陵地のマメ科植物の生える農地を好む。

特徴 はねの表の中央部は紫色、それ以外の部分は褐色である。オスよりメスの褐色部分の方が広く、後はねに白く縁どられた黒点が並んでいるのが目立つ。



③ ツバメシジミ 報告 5 件 【平成 30 年度 47 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川	2			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	1			
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	5			
合計	5 件			

食草 レンゲソウ、シロツメクサ、カラスノエンドウ、ヤマハギ、コマツナギなどの各種マメ科植物

生息環境 平地～山地の丈の低い草地。公園や農地、河川堤防、牧草地、採草地など様々な環境に生息する。

特徴 はねの表が紫色で、黒色の縁取りがある個体はオス。黒褐色である個体はメス。裏はオスメスともに白色で、ゴマのような小さい黒色の点が並ぶ。



④ ベニシジミ 報告 7 件 【平成 30 年度 110 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	2			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	4			
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他	1			
小計	7			
合計	7 件			

食草 スイバ、ギシギシ、ヒメスイバなど(タデ科)

生息環境 平地～山地の草原。小規模な草地やある程度の草がある都市公園などにも生息する。

特徴 表の地色は黒褐色で前翅の中央部にはオレンジ色が広がり、黒色の点が見られる。裏は表の黒褐色の部分の灰色になる。夏型はオレンジ色の部分が狭く、ほとんど見られない個体もある。



⑤ ムラサキシジミ 報告 16 件 【平成 30 年度 36 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	3			
5 林縁	9			
6 公園	1			
7 住宅地	3			
8 調節池				
9 その他				
小計	16			
合計	16 件			

食草 アラカシ、イチイガシ、コナラ、クヌギ、カシワ、ミズナラなど(ブナ科)

生息環境 森林・林縁・公園・人家などを好む。

特徴 表は濃い青色で、黒色の縁取りがある。裏は褐色。尾状突起がない。日中より夕方の方が活発に飛ぶ。



尾状突起がありません

⑥ ムラサキツバメ 報告 5 件 【平成 30 年度 0 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁	4			
6 公園				
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	5			
合計	5 件			

食草 マテバシイ、シリブカガシなど（ブナ科）

生息環境 温暖な地域の樹林およびその周辺が本来の生息地である南方系のチョウだが、マテバシイは街路樹や公園に植栽されることが多いため、公園や人家周辺などにも生息する。

特徴 以前は近畿地方より南の本州・四国・九州に分布していると考えられていたが、だんだんと東海地方・関東地方・福島県などから目撃情報や最終報告が相次いだことから分布をより北に広げつつあると考えられている。これは温暖化などの原因のほか、幼虫の食草となるマテバシイが街路樹や庭木（にわき）として盛んに植樹していることが関係しているとされている。

翅の表が暗い紫色の個体はオス、青紫色の部分がある個体はメスである。ムラサキシジミと似ているが、ムラサキツバメの方が少し大きいことや、尾状突起があることなどから識別することができる。集団で、成虫のまま越冬する。幼虫は体からアリの好む液体を分泌し、トビイロケアリなどのアリに守られる代わりにアリに分泌物を提供する「共生」を行うことが知られている。



尾状突起があります

⑦ ヤマトシジミ 報告 109 件 【平成 30 年度 375 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地	6			
3 水路・河川	7			
4 樹林地	2			
5 林縁				
6 公園	29			
7 住宅地	62			
8 調節池				
9 その他	2			
小計	109			
合計	109 件			

食草 カタバミ(カタバミ科)

生息環境 平地～低山地の人為的な環境に広く見られ、カタバミが少しでも生える空間があればどこでも生息する。

特徴 表は紫色で、外側には細い黒色の帯がある。裏は暗い灰色で、全体的に小さくて黒い点が見られる。都市部で最もよく見られるチョウのひとつであり、個体数も多い。近年分布が北上している。



⑧ ルリシジミ 報告 3 件 【平成 30 年度 8 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	1			
5 林縁	1			
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他	1			
小計	3			
合計	3 件			

食草 ヤマハギ、フジ、クズ(マメ科)、ミズキ(ミズキ科)、イタドリ、オオイタドリ(タデ科)などを主に利用するが、そのほかバラ科、シソ科など多くの種類を利用する。

生息環境 平地～山地の樹林やその周辺、農地、河川、公園など食草のある様々な環境に生息する。

特徴 オスのはねは、表が紫色で細い黒色の縁取りがあり、裏は灰色に小さな黒色の点が散らばっている。メスのはねは、表が白色で黒の縁が広く、裏はオスと同様である。尾状突起はない。



3-4 タテハチョウ科

① アカタテハ 報告2件 【平成30年度 3件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	1			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他	1			
小計	2			
合計	2件			

食草 カラムシ、イラクサ、ホソバイラクサ、ナンバンカラムシ(イラクサ科)

生息環境 平地～山地の明るい草地。河川堤防や道路わきなど、小規模な草地にも生息する。

特徴 はねは黒色で、外縁に沿って赤くなっている。日中明るい草地をすばやく飛ぶ。

② アカボシゴマダラ 報告 15 件 【平成 30 年度 140 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	1			
4 樹林地	5			
5 林縁				
6 公園	3			
7 住宅地	3			
8 調節池	1			
9 その他	2			
小計	15			
合計	15 件			

食草 クワノハエノキ（ニレ科）

生息環境 平地の樹林。人家周辺などにも生息する。

特徴 はねは黒地で、白の斑点模様がある。また後翅に赤い点がある。中国から持ち込まれた外来種で、2018 年より特定外来生物に指定された。

※特定外来生物 海外起源の外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。指定された外来種は飼養・栽培・保管・運搬・輸入といった取り扱いが規制されます。



③ アサマイチモンジ 報告 1 件 【平成 30 年度 4 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	1			
合計	1 件			

食草 スイカズラ、タニウツギなど(スイカズラ科)

生息環境 雑木林、農地の林縁部、低木林のほか、河川堤防の藪に生息する。

特徴 表は黒地で、中央に 1 本白の帯模様がある。裏はオレンジがかった褐色地で、表同様中央に白の帯模様がある。里山の放棄によって、全国的に減少傾向にある。



白い点が目立つのは
アサマイチモンジです

④ イチモンジチョウ 報告 2 件 【平成 30 年度 0 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁	2			
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	2			
合計	2 件			

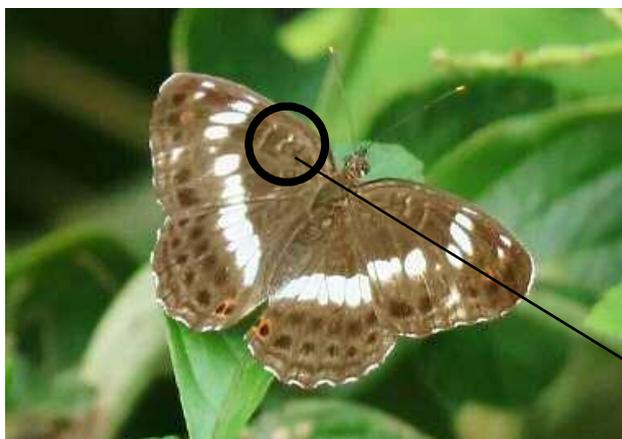
食草 スイカズラ、キンギンボク、タニウツギ、ニシキウツギ、ヤブウツギなど(スイカズラ科)

生息環境 低木の林や草原、花によく来るほか、湿地や腐果も好む。

特徴 名前のとおり中央に 1 本の白線がある中型のチョウ。アサマイチモンジとよく似ているが、はねの模様でみわけることができる。○の位置に白い模様がある個体はアサマイチモンジ、不明瞭またはない個体はイチモンジチョウである。

北海道、本州・四国・九州に分布し、各地でふつうにみられる。国外では、朝鮮半島、中国東北部、中国よりヨーロッパにわたりユーラシア大陸の北部に広く分布している。

幼虫（3 齢）で越冬し、食草の葉を巻いて越冬巣をつくり、その中にひそんで冬を越す。



オスは通常点がなく、
メスはあるものの不明瞭です

⑤ キタテハ 報告 18 件 【平成 30 年度 85 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁	2			
6 公園	4			
7 住宅地	11			
8 調節池				
9 その他				
小計	18			
合計	18 件			

食草 カナムグラ、カラハナソウ(クワ科)、ホソバイラクサ(イラクサ科)など

生息環境 人家や公園などの明るい草地の空間や河川の堤防や鉄道の土手、農地脇などに生息する。

特徴 はねの表はオレンジ色で、裏は褐色。北海道では減少が著しく、最近の記録がないが、他の地域ではよく見られる。



⑥ クロコノマチョウ 報告6件 【平成30年度 0件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	6			
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	6			
合計	6件			

食草 ススキ、ジュズダマ、ヨシ、ダンチク、アブラススキなど(イネ科)

生息環境 平地～丘陵地の樹林地や農地周辺などを好む。

特徴 大きさが26～38mm程度の大型のチョウ。昼間は驚かさなければ飛び立たないが、夕方からは活発に活動をする。樹林(雑木林)の低い位置を飛翔するが、あまり遠くには行けず、近くの地面に止まる。漢字では黒木間蝶と書く。かつて東京周辺では見られなかったが、現在は定着して発生している。

静止時に翅を開かないのはジャノメチョウ科らしい点である。越冬形態は成虫である。産卵の時、母チョウは食草の葉にぶら下がるように止まり、卵は3～10個くらい1カ所にかためて産み付けられる。



メスは赤みがあり、この部分がオスより突出しています

⑦ ゴマダラチョウ 報告 2 件 【平成 30 年度 10 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	1			
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	2			
合計	2 件			

食草 エノキ、エゾエノキなど(ニレ科)

生息環境 雑木林で多く見られるほか、都市公園や社寺林などの小規模な樹林地にも生息する。

特徴 表は黒地で、白の模様が散らばっている。裏もほぼ同様だが少し淡い。春型は夏型と比べて白色が強く、裏がほぼ白く見える個体もある。近年、外来アカボシゴマダラの侵入によって、競合による悪影響が懸念されている。



⑧ コミスジ 報告 11 件 【平成 30 年度 32 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁	4			
6 公園				
7 住宅地	6			
8 調節池				
9 その他				
小計	11			
合計	11 件			

食草 フジ、クズ、ナンテンハギ、ハリエンジュなどの各種マメ科植物など

生息環境 平地～山地の樹林地およびその周辺に生息し、発達した森林では少ない。

特徴 表は黒褐色、裏は赤褐色地に白い帯状の模様がある。羽ばたきと滑空を繰り返しながら飛び、はねを開いて葉に止まる。



線が 2 つに分離しています

⑨ コムラサキ 報告 2 件 【平成 30 年度 報告 12 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	1			
4 樹林地	1			
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	2			
合計	2 件			

食草 ネコヤナギ、オノエヤナギ、カワヤナギ、バッコヤナギ、シダレヤナギ、ドロノキなど(ヤナギ科)

生息環境 平地～山地のヤナギ類が生える樹林。河畔林や湿地帯、溪谷のほか、都市公園や街路樹などにも生息する。

特徴 オスの表は瑠璃色、メスの表は褐色。河川敷の大幅な改変などにより減少したものの、都市近郊でもみられることがある。



この個体はオスです

⑩ サトキマダラヒカゲ 報告 22 件 【平成 30 年度 56 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	15			
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	7			
8 調節池				
9 その他				
小計	22			
合計	22 件			

食草 マダケ、アズマネザサ、メダケ、ミヤコザサ、チシマザサ、クマザサなどのタケ・ササ類の各種(イネ科)

生息環境 平地～山地の森林。雑木林のほか、都市部の公園などにも生息する。

特徴 表の地色は茶褐色で、はねの縁には黄色の模様があり、中心部には黄色の線が入っている。



⑪ ツマグロヒョウモン 報告 59 件 【平成 30 年度 223 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	2			
2 畑・草地				
3 水路・河川	1			
4 樹林地				
5 林縁	1			
6 公園	8			
7 住宅地	45	1		
8 調節池				
9 その他	1			
小計	58	1		
合計	59 件			

食草 パンジー、ニオイスマイレなど(スマイレ科)在来種ではタチツボスマイレ、スマイレなど

生息環境 人家周辺、都市公園、農地などの明るい草地に見られ、特にパンジーの植栽に伴って都市部に多く生息する。

特徴 オスのはねは、表がオレンジ色地に黒色のヒョウ柄で、裏が黄土色である。メスのはねは、前翅の外側半分が黒色で、中に白い帯状の模様が入っている。分布が北に拡大しており、東京付近では 2000 年代に入ってからよく見られるようになった。



この個体はオスです



この個体はメスです

⑫ ヒカゲチョウ 報告 14 件 【平成 30 年度 35 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川				
4 樹林地	4			
5 林縁				
6 公園	3			
7 住宅地	6			
8 調節池				
9 その他				
小計	14			
合計	14 件			

食草 メダケ、アズマネザサ、ヤダケ、クマザサ、ミヤコザサなど(イネ科)

生息環境 丘陵地～山地では普通に生息しているが、開発などによって都市部では減少傾向にある。

特徴 表は褐色で、裏に目のような模様がある。近年は開発により、都市部では減少傾向にあるが、良好な環境があれば見られることもある。



⑬ ヒメアカタテハ 報告 8 件 【平成 30 年度 83 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地	4			
3 水路・河川	1			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	2			
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	8			
合計	8 件			

食草 ハハコグサ、ヨモギ、ゴボウ(キク科)、カラムシ(イラクサ科)など

生息環境 平地～山地の明るい草地を好む。

特徴 はねは黒くて全体に赤色が広がり、前翅の外側に白い点がある。各地でよく見られ、都市部などでは秋になると個体数が増加する。



間違いやすいアカタテハは
褐色部分がもっと広く
外側のみ赤色となります

⑭ ヒメジャノメ 報告 22 件 【平成 30 年度 71 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	2			
4 樹林地	12			
5 林縁	2			
6 公園	1			
7 住宅地	5			
8 調節池				
9 その他				
小計	22			
合計	22 件			

食草 イネ、チジミザサ、チガヤ、ススキ、アズマネザサ(イネ科)、カサスゲ、ヒメスゲ(カヤツリグサ科)など

生息環境 農地、河川堤防、雑木林周辺などの開放的な空間を好む。

特徴 はねは黒褐色で、表の前翅および裏の両翅に目のような模様がある。全体での数はそこまで変化していないが、都市部では環境の改変により減少している。



⑮ ミドリヒョウモン 報告 1 件 【平成 30 年度 3 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園	1			
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	1			
合計	1 件			

食草 タチツボスミレ、オオタチツボスミレなどの各種スミレ科植物

生息環境 平地～山地の樹林およびその周囲に生息する。

特徴 表はオレンジと黒のヒョウ柄模様。裏の地色はオスがオレンジ色、メスが暗い褐色で、白の帯が 3 本入っている。

⑩ ルリタテハ 報告 20 件 【平成 30 年度 52 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	13			
5 林縁	1			
6 公園				
7 住宅地	4			
8 調節池				
9 その他		2		
小計	18	2		
合計	20 件			

食草 サルトリイバラ、ホトトギス、オニユリ、ヤマユリ、サツマサンキライなど(ユリ科)

生息環境 平地～山地の森林や林縁。雑木林などの明るい場所に見られるほか、ホトトギスの植栽によって都市部の公園や人家など小規模な樹林の周辺にも生息する。

特徴 表は暗い青色で、薄い青色の帯が入っている。裏は褐色で、中央に帯状の模様がある。夏型は明るく秋型は黒い。開発によって森林が少なくなったことにより、やや減少傾向にあるが、比較的好く見られる種である。



3-5 セセリチョウ科

① イチモンジセセリ 報告 15 件 【平成 30 年度 293 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	3			
4 樹林地				
5 林縁	1			
6 公園	3			
7 住宅地	8			
8 調節池				
9 その他				
小計	15			
合計	15 件			

食草 イネ、イヌムギ、チガヤ、エノコログサ、メヒシバ、ススキ、アズマネザサなど(イネ科)

生息環境 越冬した世代が平地～丘陵地の水田で発生・増殖し、移動・分散を行いながら秋にかけて個体数が増加する。その間、山地～高山でもよく見られるほか、都市の花壇など、どのような場所でも生息するようになる。

特徴 はねの表は茶褐色、裏は黄褐色。表裏ともに白い斑点がある。4つの斑点が1列に並んでいる個体がイチモンジセセリである。



4つの点が1列に並んでいます

② キマダラセセリ 報告 3 件 【平成 30 年度 12 件】

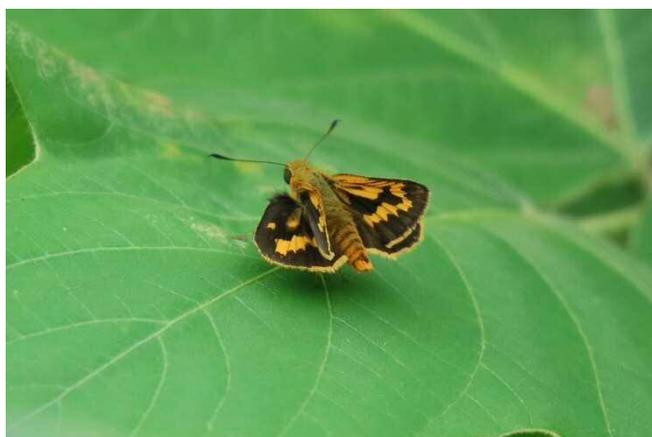
記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川	1			
4 樹林地				
5 林縁	1			
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	3			
合計	3 件			

食草 アズマネザサ、マダケ、クマザサ、ススキ、エコログサ(イネ科)など

生息環境 平地～低山地の樹林およびその周囲の草地。都市公園や雑木林などにも生息する。

特徴 表は黒地に帯状の模様があり、裏は黄色。表の帯状の模様も黄色。樹林が良好に残っている場所ではよく見られるが、一度に多くの個体が見られることは少ない。



③ ギンイチモンジセセリ 報告 3 件 【平成 30 年度 0 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川	3			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	3			
合計	3 件			

食草 ススキ、チガヤ、オオアブラススキ、ヨシなど（イネ科）

生息環境 乾性草原（ススキなどやや乾いた環境を好む植物が生育する草原）、河川堤防、農地周辺の草地などに生息する。

特徴 小型。翅の裏側に銀色の線が入っている。関東では年に 2 回ほど発生し、春型の方が夏型よりも線がはっきり見られる。

日中草地の低い位置を弱々しく飛翔し、ヒメジョオン、ノアザミ、タンポポ、シロツメグサなどの花に止まる。セセリチョウの仲間では 1 番蛾に似ている。

[昆虫類]環境省レッドリスト 2019 では準絶滅危惧種とされている。



④ ダイミョウセセリ 報告 6 件 【平成 30 年度 9 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地	1			
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	4			
8 調節池				
9 その他	1			
小計	6			
合計	6 件			

食草 ヤマノイモ、ナガイモ、オニドコロなど(ヤマノイモ科)

生息環境 食草が主に林縁部に生えるため、樹林周囲の明るい場所に生息する。

特徴 はねは黒褐色で、前翅の中央に白色の模様がある。後翅は地域変異があり、関東では無紋、関西では白い帯が見られる。



関東では無紋ですが、
関西では白い帯状の模様が見られます。

⑤ チャバネセセリ 報告 4 件 【平成 30 年度 62 件】

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地	1			
3 水路・河川	2			
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	4			
合計	4 件			

食草 チガヤ、イネ、ススキ、ヨシ、メヒシバなどの各種イネ科

生息環境 暖地で越冬した世代が分散・発生しながら秋にかけて個体数が増加する。その間、林縁・農地・河川・公園・人家などで普通に生息するようになる。

特徴 はねの表は茶褐色、裏は黄褐色。表裏ともに不鮮明な白色の斑点がある個体または、無紋の個体がチャバネセセリである。



白い点が弧のように並んでいるのがチャバネセセリです。

3-6 判断が難しいもの

日本チョウ類保全協会に確認させていただいたところ、報告が正しいかどうか、判断が難しいものが2件ありました。

① ベニヒカゲ 報告1件 【平成30年度 0件】

判断が難しいとした理由

- ・主に高山に生息するチョウで、現在埼玉県では分布が確認されていません。
- ・写真がなく、同定ができませんでした。

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ				
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地	1			
8 調節池				
9 その他				
小計	1			
合計	1件			

食草 ヒメノガリヤス、オニノガリヤス（イネ科）、ホンモンジスゲ、ミヤマカンスゲ、ヒメカンスゲ（カヤツリグサ科）など

生息環境 北海道では平地～山地、本州中部では主に標高1500m以上の丈の低い草原に生息する。

特徴 オスメス共に湿った場所で吸水するほか、獣糞や人の汗などにもよくとまる。成虫は8月上旬から9月中旬ごろまで発生する。生息地は人為があまり及ばない場所が多いが、各地で減少傾向が見られ、登山者の増加、シカによる食害、気候変動などによる環境の悪化が懸念されている。主に高山で見られるチョウで、埼玉県に分布しているという情報はない。報告があったのは10月だが、主な発生時期は8月～9月である。

② オオチャバネセセリ 報告 1 件 【平成 30 年 1 件】

判断が難しいとした理由

・報告は「オオチャバネセセリ」とありましたが、添付の写真より、チャバネセセリではないかと考えられます。

記録された環境

環境	成虫	幼虫	たまご	さなぎ
1 田んぼ	1			
2 畑・草地				
3 水路・河川				
4 樹林地				
5 林縁				
6 公園				
7 住宅地				
8 調節池				
9 その他				
小計	1			
合計	1 件			

食草 アズマネザサ、メダケ、ミヤコザサ、クマザサ、ススキなど(イネ科)

生息環境 平地～山地のササ原や樹林周囲の草地。丘陵部の農地と樹林が接する環境に生息するほか、山地のササ草原に多い。

特徴 はねの表は茶褐色、裏は黄褐色。表裏ともに白い斑点がある。4～5 つの斑点がジグザグにならんでいる個体がオオチャバネセセリである。



オオチャバネセセリであればここにも白い点があるはずですが無紋のため、チャバネセセリの可能性が高いです

4. 謝辞

本調査に当たっては、特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会事務局長 中村 康弘氏と、倉松川を愛する会 内山 裕幸氏にご協力をいただきました。お二人の御指導に厚く御礼申し上げます。

また、調査員登録をしてくださった市民の皆様、ご協力ありがとうございました。調査は継続して行ってまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。

5. 参考文献

「フィールドガイド 日本のチョウ」 日本チョウ類保全協会編 誠文堂新光社
写真提供 調査員 No52 様、調査員 No46 様、内山 裕幸氏

資料編 チョウの記録があったメッシュについて、記録された種をまとめたものです。

	場所 (地名は主なものを記載)	FJ 新宿新田	GI 西金野井	HI 上金崎	DF 備後東	LI 西宝珠花	ED 豊町
	記録された種数	32	20	19	18	10	9
	主な環境	住宅地 樹林地	公園 住宅地	林縁 公園	住宅地	公園 畑・草地	住宅地
	チョウの名前	記録されたものに○					
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ	○	○	○	○	○	○
	アゲハ	○	○	○	○	○	○
	キアゲハ	○	○		○	○	○
	クロアゲハ	○	○	○	○		
	ジャコウアゲハ	○					
	ナガサキアゲハ	○	○				
シロ チョウ科	キタキチョウ	○	○	○	○		○
	ツマグロキチョウ			○			
	モンキチョウ		○	○	○	○	
	モンシロチョウ	○	○		○	○	○
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ	○	○	○	○		
	ウラナミシジミ						
	ツバメシジミ	○					
	ベニシジミ	○	○				
	ムラサキシジミ	○	○	○	○		
	ムラサキツバメ		○				
	ヤマトシジミ	○	○		○	○	○
	ルリシジミ	○		○			
タテハ チョウ科	アカタテハ						
	アカボシゴマダラ	○	○	○			○
	アサマイチモンジ	○					
	イチモンジチョウ			○			
	キタテハ	○	○	○	○	○	
	クロコノマチョウ	○					
	ゴマダラチョウ	○	○				
	コムスジ	○		○	○		
	コムラサキ	○					
	サトキマダラヒカゲ	○					○
	ツマグロヒョウモン	○	○	○	○	○	
	ヒカゲチョウ	○		○			
	ヒメアカタテハ	○	○	○			
	ヒメジャノメ	○		○	○		
	ベニヒカゲ				○		
	ミドリヒョウモン					○	
ルリタテハ	○			○		○	
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	○	○	
	オオチャバネセセリ		○				
	キマダラセセリ	○					
	ギンイチモンジセセリ	○					
	ダイミョウセセリ	○					
	チャバネセセリ	○		○	○		

	場所 (地名は主なものを記載)	EF 緑町	GJ 西金野井	CE 武里中野	GD 梅田 梅田本町	DD 上大增新田 谷原新田	GE 小淵 八丁目
	記録された種数	8	7	6	6	5	5
	主な環境	畑・草地 公園	畑・草地	調節池 その他	水路・河川 公園	住宅地	水路・河川
	チョウの名前	記録されたものに○					
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ						○
	アゲハ	○		○		○	
	キアゲハ						
	クロアゲハ	○					
	ジャコウアゲハ			○			
	ナガサキアゲハ						
シロ チョウ科	キタキチョウ					○	○
	ツマグロキチョウ						
	モンキチョウ	○			○		
	モンシロチョウ	○			○	○	○
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ		○				
	ウラナミシジミ	○	○				
	ツバメシジミ		○				
	ベニシジミ	○		○			
	ムラサキシジミ						
	ムラサキツバメ						
	ヤマトシジミ	○	○	○	○	○	○
	ルリシジミ						
タテハ チョウ科	アカタテハ			○			○
	アカボシゴマダラ			○			
	アサマイチモンジ						
	イチモンジチョウ						
	キタテハ		○				
	クロコノマチョウ						
	ゴマダラチョウ						
	コムスジ		○				
	コムラサキ						
	サトキマダラヒカゲ						
	ツマグロヒョウモン	○			○	○	
	ヒカゲチョウ				○		
	ヒメアカタテハ						
	ヒメジャノメ						
	ベニヒカゲ						
ミドリヒョウモン							
ルリタテハ							
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ				○		
	オオチャバネセセリ						
	キマダラセセリ		○				
	ギンイチモンジセセリ						
	ダイミョウセセリ						
	チャバネセセリ						

	場所 (地名は主なものを記載)	HJ 西金野井	FF 粕壁東	FI 米島	GF 樋籠	IJ 小平	CC 増戸
	記録された種数	5	4	4	4	4	3
	主な環境	林縁 水路・河川	水路・河川	田んぼ	住宅地 樹林地	水路・河川 畑・草地	田んぼ
	チョウの名前	記録されたものに○					
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ				○		
	アゲハ			○	○	○	
	キアゲハ					○	
	クロアゲハ				○		
	ジャコウアゲハ						
	ナガサキアゲハ						
シロ チョウ科	キタキチョウ						○
	ツマグロキチョウ						
	モンキチョウ					○	
	モンシロチョウ		○	○		○	○
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ						
	ウラナミシジミ						
	ツバメシジミ						
	ベニシジミ						
	ムラサキシジミ	○					
	ムラサキツバメ			○			
	ヤマトシジミ		○	○	○		○
	ルリシジミ						
タテハ チョウ科	アカタテハ						
	アカボシゴマダラ						
	アサマイチモンジ						
	イチモンジチョウ	○					
	キタテハ						
	クロコノマチョウ						
	ゴマダラチョウ						
	コムスジ						
	コムラサキ						
	サトキマダラヒカゲ						
	ツマグロヒョウモン						
	ヒカゲチョウ						
	ヒメアカタテハ						
	ヒメジャノメ	○	○				
	ベニヒカゲ						
ミドリヒョウモン							
ルリタテハ							
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ		○				
	オオチャバネセセリ						
	キマダラセセリ	○					
	ギンイチモンジセセリ	○					
	ダイミョウセセリ						
	チャバネセセリ						

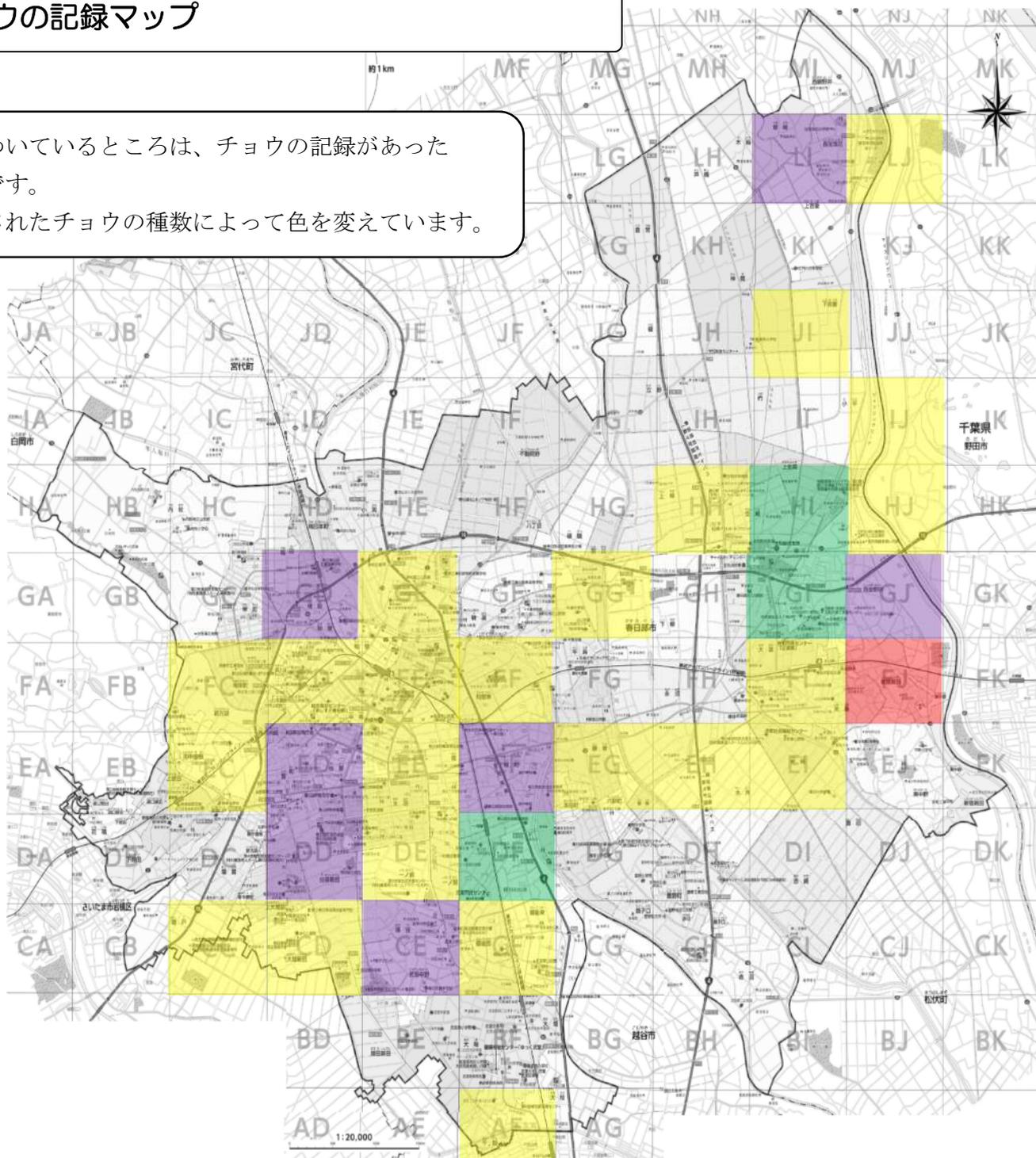
	場所 (地名は主なものを記載)	CD 下大増新田	FD 粕壁 中央	FE 粕壁東	HH 上柳	EE 中央 南	AF 大枝 千間
	記録された種数	3	3	3	3	2	1
	主な環境	田んぼ	住宅地	田んぼ	畑・草地 田んぼ	住宅地	田んぼ
	チョウの名前	記録されたものに○					
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ		○	○			
	アゲハ		○		○	○	
	キアゲハ	○				○	
	クロアゲハ			○			
	ジャコウアゲハ						
	ナガサキアゲハ						
シロ チョウ科	キタキチョウ						
	ツマグロキチョウ						
	モンキチョウ	○			○		
	モンシロチョウ	○	○	○			○
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ						
	ウラナミシジミ						
	ツバメシジミ						
	ベニシジミ						
	ムラサキシジミ						
	ムラサキツバメ						
	ヤマトシジミ				○		
	ルリシジミ						
タテハ チョウ科	アカタテハ						
	アカボシゴマダラ						
	アサマイチモンジ						
	イチモンジチョウ						
	キタテハ						
	クロコノマチョウ						
	ゴマダラチョウ						
	コムスジ						
	コムラサキ						
	サトキマダラヒカゲ						
	ツマグロヒョウモン						
	ヒカゲチョウ						
	ヒメアカタテハ						
	ヒメジャノメ						
	ベニヒカゲ						
ミドリヒョウモン							
ルリタテハ							
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ						
	オオチャバネセセリ						
	キマダラセセリ						
	ギンイチモンジセセリ						
	ダイミョウセセリ						
	チャバネセセリ						

	場所 (地名は主なものを記載)	CF 備後東	DE 大沼	EC 南中曾根	EG 藤塚	EH 水角	EI 米崎
	記録された種数	1	1	1	1	1	1
	主な環境	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ
	チョウの名前	記録されたものに○					
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ						
	アゲハ						
	キアゲハ						
	クロアゲハ						
	ジャコウアゲハ						
	ナガサキアゲハ						
シロ チョウ科	キタキチョウ						
	ツマグロキチョウ						
	モンキチョウ						
	モンシロチョウ	○	○		○	○	○
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ						
	ウラナミシジミ						
	ツバメシジミ						
	ベニシジミ						
	ムラサキシジミ						
	ムラサキツバメ						
	ヤマトシジミ						
	ルリシジミ						
タテハ チョウ科	アカタテハ						
	アカボシゴマダラ						
	アサマイチモンジ						
	イチモンジチョウ						
	キタテハ						
	クロコノマチョウ						
	ゴマダラチョウ						
	コムスジ						
	コムラサキ						
	サトキマダラヒカゲ						
	ツマグロヒョウモン			○			
	ヒカゲチョウ						
	ヒメアカタテハ						
	ヒメジャノメ						
	ベニヒカゲ						
	ミドリヒョウモン						
ルリタテハ							
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ						
	オオチャバネセセリ						
	キマダラセセリ						
	ギンイチモンジセセリ						
	ダイミョウセセリ						
	チャバネセセリ						

	場所 (地名は主なものを記載)	FC 新方袋	JI 下吉妻	LJ 西宝珠花 上吉妻
	記録された種数	1	1	1
	主な環境	公園	その他	畑・草地
	チョウの名前	記録されたものに○		
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ			
	アゲハ	○	○	○
	キアゲハ			
	クロアゲハ			
	ジャコウアゲハ			
	ナガサキアゲハ			
シロ チョウ科	キタキチョウ			
	ツマグロキチョウ			
	モンキチョウ			
	モンシロチョウ			
シジミ チョウ科	ウラギンシジミ			
	ウラナミシジミ			
	ツバメシジミ			
	ベニシジミ			
	ムラサキシジミ			
	ムラサキツバメ			
	ヤマトシジミ			
	ルリシジミ			
タテハ チョウ科	アカタテハ			
	アカボシゴマダラ			
	アサマイチモンジ			
	イチモンジチョウ			
	キタテハ			
	クロコノマチョウ			
	ゴマダラチョウ			
	コムスジ			
	コムラサキ			
	サトキマダラヒカゲ			
	ツマグロヒョウモン			
	ヒカゲチョウ			
	ヒメアカタテハ			
	ヒメジャノメ			
	ベニヒカゲ			
ミドリヒョウモン				
ルリタテハ				
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ			
	オオチャバネセセリ			
	キマダラセセリ			
	ギンイチモンジセセリ			
	ダイミョウセセリ			
	チャバネセセリ			

みんなで取り組む生き物調査プロジェクト 2019 チョウの記録マップ

色がついているところは、チョウの記録があった場所です。
記録されたチョウの種数によって色を変えています。



色の説明

- 黄色：1～5種類
- 紫色：6～10種類
- 水色：11～15種類（今回は該当なし）
- 緑色：16～20種類
- 赤色：20種類～



